



「笑顔とつながり」

永田台

サステイナブルスクール

No.528 1月号
横浜市立永田台小学校
TEL(714)4277
令和2年1月6日



進んであいさつ
笑顔あふれる
住みよいまちに



この星に生まれし「地球あたりの者」として

校長 武山 朋子

2020年、東京オリンピック・パラリンピックの年を迎えました。全世界から、トップアスリートたちがここ日本に集まり、また、その活躍を応援しようと、さらに多くの外国の方々が日本を訪れることでしょう。

世界はある意味で、すでにとても狭くなっています。ほんのわずかな移動時間で諸外国を訪問することができますし、様々な国の様々な土地の様子、自然や人々の暮らしをリアルタイムに映像で見することもできます。そして人々が同じように食事をし、家族と笑い合い、悲しみに涙する姿を見ると、私たち日本人と何ら変わらないことに気付かされます。

狂言師の野村萬斎さんは元旦の新聞記事の中で、狂言では多くの曲が「このあたりの者でござる」というセリフで始まることを挙げながら、肩書も素性も関係のない、今ここにいるあなたと同じような人間の話として演じられる狂言の包容力を示し、「世界中から集まってくる大勢の人たちのことはみんな、『地球あたりの者』と考える」ことを提案しています。確かに、そう考えれば国の違い、民族の違い、言葉の違い、文化の違い…そんな違いにばかり目を奪われることなく、同じ地球人である「地球あたりの者」として、互いを尊重し温かい関係性が築けるはずです。



そういう時代に、私たちがそれぞれの共同体で一つのチームとして物事に当たるとき、どんなチームを創っていけばいいのでしょうか。

その答えの一つが、昨年度活躍した日本ラグビーチームではないかと考えます。多様な人種、様々な国や地域にルーツをもつ人々が、ONE TEAM として戦う姿は、私たちのこれからの多様性が尊重された共同体の在り方を示してくれました。また、ラグビーの中では、ポジションによって生かされる体格や身体能力、性格等が様々であることから、実に多彩なメンバーによって構成されています。つまり、一人一人に自分らしさを生かせるポジションがあるということです。それは、自分は自分として精一杯力を発揮し、同時に、自分とは違う仲間の活躍も応援し、信頼し、協力することができるということだといえるでしょう。これからの未来を生きる子どもたちにも、一人一人が自分らしさを大切に、また、大切にされる世界を創ってほしいと切に願います。2020年はまさにそのスタートにふさわしい年となるはずです。



永田台小学校が子どもたちにとって、その世界への入り口となることを目指し、私たち職員もまた力を尽くしていきたいと思えます。今年も皆様のご理解、ご協力を心よりお願い申し上げます。